

〈特集〉農業に親しもう



野菜づくりって楽しいネ!

「庭はないけれど野菜作ってみたい」「子どもたちに経験させたい」「週末だけやってみたい」「農業に携わりたい」など、野菜づくりや農業に関心のある方は多いはず。そんなとき、市の「ふれあい農園」や「親子ふれあい農業体験」で、農業に親しんでみてはどうでしょう。

現在ふれあい農園を利用している家族に野菜を育てる楽しさを、農業のプロには農業に親しむきっかけや喜びなどを聞きました。

農業は生きがい

もともと農業を営んでいたわけではありません。長く会社員時代を過ごし、定年後はゴルフでもしながらのんびりしようと思っていたら、妻から「それでは希望がない」と言われまして。

友人から市の農業振興課主催の研修制度のことを聞き参加してみたところ、実際に畑での作業をやっているうちに楽しくなってきました。以来7年間、雨の日以外



立花さんと援農ボランティアの皆さん

は毎日妻の作った弁当を持って畑へ行っています。

育てた野菜を買ってくれる人がいる

天候などにより不作のときもありますが、「農」の喜びは何と云っても作った野菜を買ってくれる人がいることだね。自分が手塩にかけて育てた野菜ですから「おいしかったよ!」と笑顔で言われたときはうれしい。

ご褒美は、お日様の下で元気に働いて土に触れ、健康なことかな(笑)。

興味があるのなら始めてみませんか

例えば農業の後継者がいない農家をサポートする「援農ボランティア」もあります。私も教える側として関わっていますが、3年間の研修とボランティア(実技)で、農業をやる上で

はかなり有効です。親子で楽しむなら「親子ふれあい農業体験」もいいですよ。自分で野菜を作りたい方は「ふれあい農園」の申し込みもあります。



生産者 立花 富男さん

農作業のこと、野菜づくりのことで分からないことがあれば聞いてください。一人でも多くの人たちが農業に関心や興味を持ってきて、そこから綾瀬の農業が継続していったらいいなと思っています。

5面には、農業関連の募集記事を掲載。特集記事と併せて読んでください。



家族で野菜づくり。育てる苦労はあるけれど収穫が楽しみです!

吉村 和広さん・方子さん・朱乃さん

「親子ふれあい農業体験」がきっかけで、3年前「ふれあい農園」に申し込みました。主に週末の農作業となりますので、夏場などは雑草の伸びが早く大変でした。時間はかかりますが、なんとか収穫できたときは、「やっとできた! 食べられる!」と喜びました。採れたてが新鮮でおいしいんですね。

娘はゆでたサトイモに塩をつけて食べたり、スナップエンド



ウなどはずっと食べ続けているくらい野菜が好きです。無農薬で育てているので虫食いもありますが、それだけおいしいという証拠だと思っています。

栃木にいる祖父から耕運機のプレゼントがあり、なおさら農作業に力が入りそうです。平日は会社員ですが、週末は農業人(笑)。畑に行くと仕事の疲れも吹き飛びます。

作業で分からないことがあっても、周りの畑には経験豊かな年配の方々もいらっちゃって何でも教えてくれます。みんな上手だし優しい。年代を超えた皆さんとの交流もうれしいです。



「ふれあい農園」の申し込みが始まります

■募集区画 1区画20㎡で、約245区画(小園約60、中村約30、上土棚約70、水久保約30、蓼川約30、吉岡約25)

■期間 3月～令和5年1月の約3年間

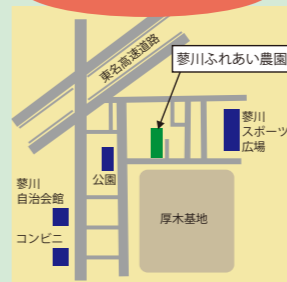
■対象 市内在住の方(市外在住の方は、区画が余った場合の追加募集時のみ応募可)

■費用 1万7500円

■申込 1月6日～31日に、同農園運営委員会事務局(農業振興課内。☎70・5622)にある申込書に記入し同事務局へ直接か、はがきに住所、氏名、昼間連絡がつく電話番号、希望農園(第1・2希望)を記入し、〒252-1192ふれあい農園運営委員会事務局(農業振興課内)へ郵送(消印有効)

※抽選により選ばれた入園者には、入園説明会と区画抽選会(2月16日開催)の案内通知を送付します

蓼川ふれあい農園



場所: 蓼川13-1460-1

小園ふれあい農園



場所: 小園916-1

水久保ふれあい農園



場所: 深谷中7-3031-1

吉岡ふれあい農園



場所: 吉岡1970-1

上土棚ふれあい農園



場所: 上土棚南6-1646-1

中村ふれあい農園



場所: 深谷南6-2160-1



気軽に野菜づくりを体験。採れたて野菜を食べたり、収穫祭も開催

4月～12月の期間で月に1回程度、市内在住の親子(小学生以下)を対象に市職員による指導の下、季節に合わせたさまざまな野菜を作ります。収穫した野菜は、作業後に持ち帰ることができます。作業後の畑で、採れたての野菜を味わったり、スイカ割りを行ったりする月もあります。12月には、収穫祭を開催します。



※「親子ふれあい農業体験」「援農ボランティア養成講座」については、広報あやせ3月1日号で募集します



3年間の研修後農家の作業を手助け。学びながら農業のプロを目指す方へ

市内在住で、農作業に興味があり、3年間の研修に参加できる方を対象に、市内農家の農作業を手助けするボランティアを養成する講座です。



▶土光智子さんは、農業や自給自足に興味があり「プロの技術を学びたい」と広報誌を見て応募。今年3月で研修を終えます。